

指定管理候補者の選定結果について

本県が設置している以下の「公の施設」について、指定管理者制度を活用するにあたり、以下のとおり指定管理候補者を選定したので、その結果を公表します。

なお、指定管理者の指定については、令和6年11月三重県議会定例会月会議の議決を経た後に行うこととなります

1 対象施設

- (1) 施設名称 三重県立熊野古道センター
- (2) 設置場所 三重県尾鷲市大字向井字村島12番4

2 応募申請団体名

申請団体名	住 所
NPO 法人 ECCOM	三重県三重郡菰野町小島4059番地
特定非営利活動法人 熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク	三重県尾鷲市野地町12番27号

※各申請団体が提出した事業計画の要旨については、次のとおりです。

三重県 HP (<https://www.pref.mie.lg.jp/OCHIIKI/HP/m0029900040.htm>)

3 選定方法

(1) 選定委員会構成員

- 委員長 櫻井 治男 (皇學館大学特別招聘教授)
- 委員 梅谷 陽子 (協同組合尾鷲観光物産協会事務局長)
- 委員 平山 泉 (みきさといーぐみ代表)
- 委員 山下 謙一郎 (公認会計士)
- 委員 湯浅 祥司 (公募により選出)

(2) 審査の経過

令和6年 6月20日 第1回選定委員会 (審査基準等の策定)

令和6年 9月24日 第2回選定委員会 (ヒアリング審査)

令和6年10月 9日 第3回選定委員会 (最終審査)

※詳しくは、別添リンク先の議事概要などをご覧ください。

三重県 HP (<https://www.pref.mie.lg.jp/OCHIIKI/HP/m0029900040.htm>)

(3) 審査基準等

○選定基準 ・審査基準	配点 (委員1人)
1 事業計画の内容が、県民の平等な利用を確保することができるものであること。 ・利用の平等性 ・管理運営の基本方針の合致 ・利用者の特定化などの偏りがない ・企業（団体）の社会的責任	50点 (10点)
2 事業計画の内容が、センターの施設等の適切な維持管理を図ることができるものであること。 ・利用者の安全確保、事故防止対策 ・危険箇所・破損箇所・不良箇所の発見やその措置 ・効率的で安定的な維持管理 ・緊急時等における危機管理対応 ・研修や訓練など平常時の対策 ・チェック体制や責任体制 ・職員への教育・研修方法	100点 (20点)
3 事業計画の内容が、センターの効用を最大限発揮できるものであり、県民サービスの向上を図ることができるものであること ・実現可能性 ・ビジターセンター機能を高める具体的な提案 ・来場者数を増やす具体的な方策 ・利用料金の設定 ・利用者目線に立ったサービス向上の具体的な提案 ・施設の稼働率などを高めるための具体的な提案 ・他施設等・他の団体等との具体的な連携策 ・利用者の声の把握及び反映などサービス向上 ・利用促進・サービス向上・経費縮減等の目標設定	200点 (40点)
4 事業計画の内容が、センターの施設等の管理に係る経費の縮減を図るものであること ・収入、支出の積算と提案事業内容との整合性 ・提案事業が十分実施できる計画であること ・提案価格に対する評価	75点 (15点)
5 事業計画に沿った管理を安定して行うために必要な人員及び財政的基礎を有していること ・施設の継続的、安定的な運営能力 ・人員の確保 ・適切な組織体制や責任体制 ・提案事業内容が実施できる体制 ・職員の人材育成に繋がる方針 ・業務上必要な研修（人権研修等）	75点 (15点)
合計	500点 (100点)

4 審査結果（評価点数）

評価 順位	申請団体名	審査 基準 1	審査 基準 2	審査 基準 3	審査 基準 4	審査 基準 5	評価点
	配点	50 点	100 点	200 点	75 点	75 点	500 点
1 位	特定非営利活動法人熊野 古道自然・歴史・文化ネ ットワーク	40.0 点	80.0 点	164.4 点	66.0 点	64.0 点	414.4 点
2 位	NPO 法人 ECCOM	35.5 点	71.9 点	151.1 点	60.0 点	48.0 点	366.5 点

5 指定管理候補者

- (1) 団体名 特定非営利活動法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク
- (2) 代表者名 理事長 林 伸行
- (3) 所在地 三重県尾鷲市野地町 1 2 番 2 7 号

6 選定した理由

審査結果及び以下の提案を評価し、指定管理候補者に相応しいと判断しました。

- ・熊野古道及びその周辺地域の自然・歴史・文化を守り、活かしていくために必要な「本質を理解するためのサポート」、「次世代への継承」といった観点が十分意識された提案であること
- ・開催を予定している企画展、交流事業等の企画内容が具体的で、利用者の声を反映したものとなっており、かつ施設の管理を含め実現性の高い提案であること
- ・特色ある企画展の開催や東紀州地域を中心とする人々・団体、学校との連携を積極的に行うなど、熊野古道センターと地域を結び、交流を定着させる具体的な提案がなされていること

なお、以下の点に課題があると考えますので、注力するよう期待します。

- ・国内外の世界遺産登録地との連携や情報交換をどのように展開しセンターの役割を果たすかという点について、更なる検討が必要であること
- ・堅実さがよく表れている一方で、昨今の訪日外国人旅行者の増加や情報技術の発展などの社会の変化に応じた新たな集客及び情報発信手法を検討すること
- ・新しい情報技術を取り入れた効率的な施設管理、利用者サービスの向上に努めること

7 指定の期間（予定）

令和 7 年 4 月 1 日から令和 1 2 年 3 月 3 1 日までの 5 年間